総務建設農政常任委員会視察研修

「株式会社大森淡水」の養鰻と、町活性化の取組について
宮崎県宮崎市・大分県湯布院町

総務建設農政常任委員会では、10月23日・24日に宮崎県宮崎市の「株式会社大森淡水」の養鰻と「生活観光地」湯布院町の町活性化の取組について視察研修を行ってまいりました。

当町では現在、ウナギの加工場を建設しており、ウナギを仕入れ加工し販売する計画があります。

「株式会社大森淡水」グループは、九州の暖かい気候と豊かな地下水で、高品質で安心の国産ウナギを育てており、グループ全体の取扱量は、令和4年度実績で約3千トン以上、国内の養殖ウナギの約16％を取扱っております。また、自社で約8ケ月から1年をかけ、1・「餌のこだわり」、2・「水のこだわり」、3・「鮮度へのこだわり」、4・「安全・安心へのこだわり」と、4つのこだわりを持ちウナギを育てておりました。今回の調査で、「株式会社大森淡水」の良質・安心の宮崎ウナギ作りが確認できました。

次に、大分県湯布院は、いたる所に温泉が湧き、自然豊かな景観がある、この町にゆっくり滞在し、宿泊客と土地の人と触れ合える保養地にしたいと考え、観光バスで大勢来る温泉地とは一線を画し、人間同士が理解しあえる大きさの町にこだわり、小さくあることを選んだ町でした。

温泉の宿泊客を宿の中に取組のではなく。町自体を楽しんでもらえるような観光を目指すべきだと考え、次々とアイデアを実行し、注目が高まり、次第に観光客が増えてきた。

観光の中身は特別に観光用に造るものではなく、町の生活が豊かで魅力あるものであれば、その土地の暮らしそのものが観光の中身になりえるという「生活観光地」の思想は、大いに参考になると感じました。

教育福祉常任委員会視察研修

オガールプロジェクトの取組について
岩手県紫波郡紫波町

教育福祉常任委員会では、11月21日・22日に岩手県紫波郡紫波町のオガールプロジェクトの取組について視察研修を行ってまいりました。

オガールとは紫波の方言で「成長」を意味する「おがる」と、フランス語で「駅」を意味する「ガール」を組合わせた造語であります。

紫波町は平成21年2月に循環型まちづくり理念とした「紫波町公民連携基本計画」を策定し、官と民が連携し開発するための代理人の役割を担う、第3セクターの「オガール紫波株式会社」を設立し業務委託を結びました。平成22年3月に人と環境に優しい統一感のある景観で、美しい街並みをコントロールするために、「オガール・デザインガイドライン」を策定しました。この基本計画とデザインガイドラインに基づき、10年以上放置されていた町有地を整備し、農村と都市が共生し環境や景観に配慮したまちづくりを目指す「オガールプロジェクト」が始まりました。

オガールプロジェクトの目的は、まちづくりとは「人」ではなく「不動産の価値の向上である」と考え、町民の財産である町有地に付加価値を付けて価値そのものを増大させ、町有地の安売りはしないことであります。

平成24年6月に図書館、地域交流センター、子育て支援センター、民営の産直販売所、カフェ、居酒屋、医院、学習塾などで構成された、オガールプロジェクトの中核となる官民複合施設の「オガールプラザ株式会社」を設立しました。その他民間複合施設として体育館や宿泊施設など「オガールベース」をはじめ、町役場、広場、公園、分譲住宅地等を整備し、オガールエリアで大きな雇用の創出となっております。

このように紫波町は、町有地を活用して公民連携の手法を用いながら財政負担を最小限に抑え、公共施設整備と民間施設による複合開発を進めております。

編集発行：茨城県境町議会広報編集委員会

委員長	染谷　直人	委　員	飯田　進
副委員長	佐怒賀康輔	委　員	岩﨑　博

〒306-0495　境町３９１－１
TEL. 0280－81－1316　FAX. 0280－87－5873
http://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp